

第12期第6回岸和田市文化振興審議会会議録

1. 審議会の名称	第12期第6回岸和田市文化振興審議会
2. 開催日時	令和5年11月28日(火) 午後2時～午後4時
3. 開催場所	岸和田市立文化会館 創作実習室2
4. 公開・非公開の別	公開
5. 出席者	平松委員、齊藤委員、田中委員、塚本委員、益岡委員 金森委員、広瀬委員、稲垣委員、長田委員、西山委員 以上10名
6. 欠席委員	早田委員、青木委員 以上2名
7. 事務局	船橋魅力創造部長、田宮文化国際課長、森川、清水 以上4名
8. 傍聴者	1名
9. 次第	1. 開会 2. 議題 (1) 「文化創造ビジョン・岸和田～文化 花 咲かそう・岸和田～」の意見公募(パブリックコメント)について (2) 「文化創造ビジョン・岸和田～文化 花 咲かそう・岸和田～」の策定について 3. その他 4. 閉会
10. その他	
会議録承認	令和5年12月26日

次第

■ 1. 開会

■ 2. 議題

(1) 「文化創造ビジョン・岸和田～文化 花 咲かそう・岸和田～」の意見公募（パブリックコメント）について

・資料1に基づき説明。

1件の意見。計画そのものに対する意見というよりは、絵画を通じたこれからの岸和田の芸術・文化の未来についての前向きな意見。次期計画（文化創造ビジョン・岸和田）で目指す方向性に合致している旨を説明。

子ども達から岸和田市民全体に、芸術・文化を広めていくことが大切であるといった内容が書かれていることより、重点目標とした、「1. 子どもたちが文化・芸術にふれ、創造性や感性を育む」や「2. 効果的な情報発信および文化芸術への関心の喚起」についての事業を推し進めていくことが重要であるとする。

(会 長) ご意見、ご感想、その他お気づきの点などはないか。

(委 員) パブリックコメントが1件という結果は少ないが、内容は貴重な意見。私たちが進めてきた内容と合致する。

(会 長) 非常に熱い気持ちが伝わるパブリックコメントであった。
パブリックコメントの中の忠岡とは隣接する泉北郡忠岡町で良いか。
この岸和田・忠岡児童作品展は自治体が行っている展覧会なのか。

(事務局) 忠岡町であると思う。自治体が開催している展覧会ではない。

(会 長) 民間で開催している展覧会という認識でよいか。

(事務局) その通りである。詳細を把握していないが、岸和田市・忠岡町に住んでいる子ども達が学校を通じて出品していると思われる。会場はマドカホールではなく浪切ホールのような。

(会 長) このパブリックコメントは、美術に特化した内容であるが、美術だけに限らず音楽・舞踊・芝居など多方面に広がっていくのが理想。

奨学金は、アイデアとして良い。会場を提供することも大切である。

(委員) パブリックコメント内の「今、行われていることを活かす知恵と行動、それを継続することで、夢のような都市を作り上げられます。やってみませんか。」、このような思いは芸術に関わる人は全員が持っている。広がりをもたらすことは理想。

「今、行われていることをどのように活かすか。」出来る事はここからだと思うが、岸和田市内には、芸術家を集約する団体がない。どこで何がどういった規模で行われているのか、実態も把握できていない。この調査から始めなければならない。同じ志を持つ人の数や、どんな思いを持っているのかなどを集まって話し合う場が欲しい。どのようにコミュニケーションをとっていけばよいのかもわからない。

公的などところで、1部門だけ先行するのは難しいと思う。

簡単に言えば、「うちのまちは文化・芸術のこの分野に特化していく」というしっかりとした方針があれば良いが、全部の分野を経済的、時間的、人力的に支援するのは難しい。市が本当に取り組んでいただけるのであれば、何か自分達のまちに特化した、楽しいもの、推せるもの、これだというものを1つ発見することが出来たら良い。これだけは推していきたいという柱1本でもあれば広がっていくのではないかな。

(会長) 全体を見渡せるプロデューサー的な存在が必要ではないか。

そういった方がいれば、どうつないだら良いか、解決の糸口になるのではないかな。

(委員) 岸和田市以外も同じような状態である。

他市でアートセンターを立ち上げたのだが、その際に簡単なパーティーを行った。関係者だけの集まりで、ざっくばらんに話しができ、その会話の中で生まれることがあるなと感じた。この審議会のメンバーでも、ざっくばらんに話し、そこから何か生まれるような場として、費用をかけない、お茶会などの場を開催しても良いのではないかな。

(会長) 改まった場所では言いにくくても、カジュアルな場であれば、活発に発言・意見交換が可能かと思う。何気ない話から生まれること、繋がっていくことがあると思う。

京都市では、市の外郭団体として「京都芸術センター」があり、ネットワーク

作りをしている。団体や個人、芸術全般に関わる人が、別の分野の方と共同企画をする相談窓口として活用されている。

しかしながら、期間が空き、活動が縮小することもあるので、定期的な開催が望ましいと思う。

(事務局) ネットワーク作りの1つかと思うが、過去に、市民会館、マドカホール、自泉会館が合同で、毎月1回、様々な文化・芸術分野から20名程が集まり情報交換を行う場を設け、活発に事業を進めていた時期があった。

しかしながら、市民会館の閉鎖、浪切ホールの開館等があり、それ以後、そのような交流の場はなかった。

文化・芸術の分野には、強制力がない。そのような場を設けてどの程度の人が集まるのか。文化振興計画懇話会でも同じような意見をいただいている。

文化・芸術は、行政から押し付けられるものではなく、市民が自ら盛り上げていくものだと考える。ただ、格式ばらない場で、様々な立場の方々の意見交換は意義があると思う。

(委員) パブリックコメントの「岸和田・忠岡児童作品展がもう34年開催され、すでに6万点を超える応募総数になっています。」は事実かと思うが、それ以外の書かれていることで実現されていること、近いような事例はあるのか。

(事務局) 若い芸術家に対して行政がバックアップしたかと言われれば、遅れを取っているのが現実である。

いろんな文化・芸術のジャンルの中で、1つに絞って進めるのも良いが、その進め方には反対の意見もあり、今の委員のご意見のように、1つの分野を柱にするのは難しい。

(委員) 自泉会館は、国指定の有形文化財に指定され、音楽家にも支持されているすばらしい響きの音楽ホールを所有している。市民に様々な分野の活動を行っていただいているが、ここではクラシック音楽を行うことが一番適している。市の協力を得ているジュニアコンサートに始まり、アーティストバンクで経験を積んでもらい、音楽家として世の中に出ていけるようにするプログラムも事業として行っている。

このような活動を小さな団体では、一生懸命行っている。

子ども達に音楽を楽しんでもらおう、そこから音楽家を育てていこうということで12年ほど行っているが、今行っている取り組みも大切にしながら、新しい取り組みにもチャレンジしていくことが大切だと思う。パブリックコメ

ントをくださった方も同じ考えを持っていると思う。

自泉会館は指定管理者である岸和田文化事業協会の方向性を組み込んで運営しているが、マドカホールや浪切ホールでは規模も大きくなかなか難しいと思う。私設の「むくの木ホール」でも、様々な分野を取り入れて運営されている。こういう点で、音楽は少しずつ動きが出ている。市もこういう方向性に力をいれるという方針を打ち出してほしい。

今は、親御さんの同伴が必要なことや、個人情報取り扱いなど、たくさんのネックがある中で、子ども達が文化・芸術を体験することが難しい。市展委員もしているが、若い人が集まらず、後継者がいない状態。携帯電話1つで何でもできる時代になった今、人を集めて何かをするには、やはり文化・芸術に関する大きな指針が必要であると思う。

(委員) 古い話になるが、岸和田文化事業協会ができる前に、岸和田市文化協会と岸和田文化連絡協議会で一緒に何かに取り組もうという話になり、お芝居を行った。盛況であったが、その後、続けることはなく、一度きりで終わってしまった。理由の1つとして、両団体の方針が少し異なっていたという点があった。

文化・芸術関係のものを、1つにまとめるのは非常に難しいだろうと思う。

岸和田文化連絡協議会も高齢化がすすみ、新しく団体に加入してくださる方も他のお仕事をされていて活発な活動が難しい状況ではあるが、頑張って活動を続けていくつもりである。

(会長) 3館合同事業などはどうか。

(委員) 3館合同事業というものを毎年岸和田市で行っている。

マドカホール、浪切ホール、自泉会館が合同で行っている、市民を主体とした文化・芸術に関する取り組みである。様々なアイデアを出してはいるが、あまり周知ができていないのか、なかなか市民に響かないのか、参加者の集まりが悪い。文化・芸術を愛でる、体験する意欲等の素地があるのかも不明。私の知る限りでは、市民会館を作る時には非常に活発な意見があり、活動されていたように思う。以前の岸和田市は、泉州地域の中で核をなしていたと思う。

(会長) 全体的に行動力が落ちているのかもしれない。また、コロナも関係しているのかもしれない。

(委員) 先日「こなから音楽祭」へ行ったが、たくさんの人が集まっていて、子ども達の歌っている姿を見て、涙が出るほど感動した。マドカホールや杉江能楽堂でも音楽を聴く機会があったが、やはり音楽というものは、一般の人にも幸せを感じさせてくれるものだった。

また、岸和田市は城下町で元々は武芸に力をいれていたようで、市外からも弓道をしにわざわざ来られる方がいるようだ。

私は、岸和田市民に活動する活力はあるのではないかと思う。

(委員) 横の繋がりが無い。

こなから音楽祭も個人が軸となり、周りの人を巻き込んで行っている。

近隣自治体でよくある、クラシック同盟や協会というような音楽関係の人達が一堂に集まるものが岸和田市には一つもない。そこをどうにかできないか。個々に活動している人はたくさんいる。

(副会長) 今日示されたパブリックコメントだが、この審議会での共有だけで終わるのは惜しいと感じる。

文化創造ビジョンを作る当初から、子どもというものが中心にあって作られてきた経緯がある。そういった意味では、このパブリックコメントは子どものことから始まって夢を書いていた。書いていただいている。

作ったビジョンは、あくまでビジョンであり、具現化するには様々なことが求められると思う。具現化させていくための一つのご意見として、どこかで目につくように記録し、活かすようにしていただきたい。

(会長) おっしゃる通りだと思う。

どの程度、公開や共有ができるのかは市の判断になるかと思うが、可能な範囲で共有していただくと刺激を受けてくれる人がいるかと思う。

(事務局) パブリックコメントとそれに対する市の考えは、市のホームページで既に公開している。

同じジャンルの方々に連盟を作ることに限っては、非常に難しいのではないかと思う。市の呼び掛けで誰が来てくれるかということを見ると現実的には非常に厳しいのではないか。

よく合唱連盟というものがあるが、確かに岸和田市にはない。様々な背景もあると思うが、基本的にはそれぞれの小さな団体が「みんなで一緒にやろう」という共通の意思をもって作り上げた任意団体であると思う。岸和田市においてはそれが無いまま今に至る。

岸和田市文化協会・岸和田文化事業協会・岸和田文化連絡協議会は、様々なジャンルが混ざっているという特徴がある。3団体でも少しずつ目的が違うかと思う。

ジャンルが一緒という理由で、合同で活動されている団体等は、知る限りは少ない。逆にいうとこれが岸和田市の特徴なのかもしれない。

(委員) 文化祭はどうか。

(事務局) 文化祭事業を行うという目的を持ち、その年度に手を上げた団体による実行委員会の形式で行っている。文化祭事業を開催するために集まる会議体なので少し違うかと思う。

ただ、この先何か新しいことに発展するための工夫、新しい創造に向けて色々な団体と繋がりたい、そしてそこから新しいヒントが生まれるという意識は共通で持っていると思う。

総合的なプロデュースをするというのは言葉で言うのは非常に簡単だが、実は大変難しいことだろうと思う。一般的には、事業を実施するという目的のために、その中心核となる方が繋ぎ合わせることはできるかもしれない。会長が以前おっしゃっていたのは、もう少し広い視点で、まちづくりという意味でプロデュースするような役割の方であり、かなり広く深く文化・芸術に関する知識があり、なおかつ、コミュニケーション力が高い方かと思う。市の中でそのような存在が必要なのかといわれると、あった方がよいと思う。施設を中心としながら色々な事業展開をしていくのが面白い効果を生み出すものだろうと思う。

(会長) 難しいとは思いますが、初めから専門の仕事として就いてもらい、続けていただくのが本当は良いと思う。自治体であるので部署異動は避けられないだろうが、プロデュースの役割を持った方が居ればよいのではないかと思う。

(委員) 文化祭で実施している市民音楽祭は、一生懸命に色々取り組んでいただき、まとまりがあるとよく聞く。おそらく、市民の中から音楽関係の人たちが集まって実施しようとしたことが最初かと思う。

実際に、市民音楽祭に参加しているが、自分の舞台出番が終わると帰ってしまう方が非常に多く、音楽祭終盤には客数がすごく減ってしまっている。会場がマドカホールに変わる以前、健老大学の発表を見に行った際は、客席が最初から最後までずっと満席だった。会場が変わった関係もあるかもしれないが、ジャンルの違う団体同士が交流する場という意味合いもあって文化

祭が実施されているのだが、認識に差異があるように思う。
みんなで盛り上がってやっていこう、というような話になるよう、何か後押ししてもらえると盛り上がっていくと思う。

(事務局) 文化祭を開催するにあたり、他の団体を鑑賞することは芸術を高める上で必要であると思う。演出方法を変えることで、発表途中での退席を減らす工夫をしている団体もある。

(委員) 個々の稽古等を一生懸命取り組んで、一つの発表の場が文化祭である。
「こなから音楽祭」は中央小学校の卒業生が実施しており、東京で音楽関係の活動をしていた方が、東京の音楽団体を連れて参加された。
岸和田の合唱団の出演や、中央小学校の卒業生が準備を行うなど、色々なことがうまく混ざり合って開催できているのはいいと思う。

(委員) 「こなから音楽祭」は、毎年開催場所が変わる。今年は中央小学校だが、教会やお寺など、色々な場所で開催されている。
指定管理ではなく個人で資金集め等を行うため、動きやすいのだと思う。

(委員) 岸和田城に二の丸広場でストリートピアノを設置する話はどうなのか。

(事務局) 現在、調整中である。

(2) 「文化創造ビジョン・岸和田～文化 花 咲かそう・岸和田～」の策定について

・資料2に基づき説明。

最終答申として委員からの意見を確認。

(会長) 来月12月に市議会に提案・報告、年内には完成の予定で良いか。
完成されたものは、どのような形で公開、公表されるのか。

(事務局) 冊子を作成し、ホームページ上で公開予定である。

(会長) 振興計画の完成が終わりではなくスタートになる。振興計画に基づいてどのようにこれから行動するのか、文化・芸術をさらに発展させていくかが大切である。

(事務局) 母体となる岸和田市文化振興条例は、子どもに重点をおいて今まで取り組んできた。第1期計画期間が終了し、第2期に入る。子どもに関してはより充実させていき、1つでも多くの事業を行っていったらと思う。令和6年度には、新たな事業を増やす予定であり、また、既存の事業も充実させ推進していきたい。

(委員) 岸和田市総合計画である「将来ビジョン・岸和田」が策定されたが、確かに一番に子どもがあったが、文化・芸術や教育より福祉に重点を置いているように感じた。

文化・芸術をどこまで考えているのか、重要視しているようには思えなかった。市として、文化・芸術をどこまで推し進めていくのか、今回の計画を反映させていただきたい。

一市民の立場から考えると、何が大事なのか、福祉だけで良いのか、文化・芸術や教育をどこまで進めていくのか、子どもに向けて市全体で共有できる組織であって欲しい。

(事務局) 計画にのっとなって、また計画以上のものを作り上げていきたい。小さな事業であってもより良いものにしていくために、常日頃から努力を怠らないよう努めている。

(委員) 完成度の高いビジョンとなっており感心する。今現在という視点を大事にしているという点で、本文2ページの13行目「新型コロナウイルス感染症とウクライナ紛争をはじめとする世界情勢・政治・軍事・社会的な緊張の高まり」の記載の部分に、令和5年に勃発したイスラエルとハマスの戦闘も追加記載したらどうか。

(会長) 市民の手に渡るまでに時間があるので、事務的に間に合うのであれば追加すべきではないか。委員の意見はどうか。

(委員) 異議なし。

(事務局) 文言については事務局に一任で良いか。

(委員) 異議なし。

(会長) 大きな方向性や内容については、本審議会として了解をいただくということ

で良いか。また、万一、軽微な修正があれば、会長と事務局に一任いただけるか。

(委員) 異議なし。

(会長) これまでの約一年半にわたる、次期文化振興計画に対する各委員の熱心な議論に感謝したい。

これをもって、審議会としての次期文化振興計画に関する議論は終了とする。

■ 3. その他

(会長) 各委員から何かあるか。

(委員) 岸和田市文化協会は、昭和 24 年に創立し、来年で 75 周年。

令和 6 年 5 月 18 日（日）に、マドカホールで記念行事を計画中。

様々なジャンルの発表をする予定。

以前、ドイツの元首相が「危機の時こそ文化が大切」と発言した。また、ある哲学者は「文化は人間をつなぐ力がある。」大変な時こそ、文化・芸術を盛んにしていくことが平和につながると感じる。

(会長) 大災害が起きた時には、ライフラインの復旧が最優先ではあるが、ある程度整うと、歌、芝居、音楽などに被災者が心癒される場面が見られる。そういう場面を目にすると、文化・芸術は必要だと強く思う。

(委員) 岸和田市少年少女合唱団が、「こなから音楽祭」で、視覚障害を持つ東京の合唱団との合唱を披露した。東京の合唱団は、初めての遠征で、ボランティアや家族が付き添って参加していた。当初はどのように本番を迎えるのか不安も多くあったが、彼らは、指揮者の風を感じ、身体全体で歌う。我々も刺激を受け、それが聴衆の感動を呼んだのだと思う。聴衆が涙する姿を目の当たりにして、この公演が、本当に成功したのだと感じた。

岸和田市にもそのような文化の土壌はある。それをどのように盛り上げていくかだと思う。今、私たちは、できることひとつひとつに全力を傾けて、努力していくことが大切である。

他の自治体では、文化に携わる公演関係者に対して駐車料金の補助を行っているようだが、岸和田市では行う予定はないのか。

(事務局)「こなから音楽会」は、岸和田市出身の方が、音楽を広げたいという思いから活動している。それが、大きなうねりとなっていて素晴らしい事だと思う。子ども達に、新しい曲、新しい出会いを通じて、どんな影響を与えたのか。また、次につなげていくことが大事と感じた。
駐車場料金については、市として受益者負担を原則とし、ホール公演等の主催者には一部補助を行っている。市の財源確保という点からそれ以外は有料となる。

(委員) 公民館まつりに参加したのだが、公民館を利用する団体が企画、運営しており盛況であった。自分が文化・芸術に触れる機会が少なくても、家族が音楽などに参加している姿をみると感動する。文化・芸術の普及には何かしらのきっかけが必要と思う。
「岸和田の文化＝だんじり」だけではなく、得意な分野を作っていけたらと感じた。

連絡事項

- ・ 委員報酬は 12 月末に口座振込み。

■ 4. 閉会